

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業構想〈小・道徳〉

特別研修員 道徳 金井 智之（小学校教諭）

主題名 感謝の心

内容項目 B－（8）感謝

教材名 『おかげさまで』（日本文教出版）第6学年

ねらい

「ぼく」が気付いたことについて議論するとともに、祖母の態度・行動に触れることを通して、日々の生活が家族や多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする態度を養う。

授業構想

中心発問におけるグループや全体での交流による多面的・多角的な児童の意見の整理や、児童の考えをゆさぶる補助発問によって、間接的に自分の生活を支えている多くの人々に対する感謝の気持ちをもつ理由について、深く考えられるようにします。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。
○「ありがとう」という感謝の言葉は、なぜ言っているのでしょうか。
・感謝をする意味は、直接的に何かをしてくれたことに対してだけなのかという問い掛けにより、本時に対する問題意識をもつ。
○感謝の言葉を言うのは、何かをしてくれたことに対してだけなのでしょうか。

【めあて】なぜ感謝をするのだろうか。

展開

2. 教科書の教材文の範読を聞く。
3. 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 「ぼく」は、祖母が「おかげさまで」と言うことに対して、どう思っていましたか。
- その後、「ぼく」は祖母の気持ちが分からないままだったのでしょうか。



〈グループでの交流の様子〉

- ◎「ぼく」は何に気付いたのでしょうか。
・グループや全体で考えの交流を行い、考えが変容した時にはノートに青文字で記入する。
◇直接お世話になっていないことに対して、なぜ感謝をするのでしょうか。
- 4. 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。
○親切にしてもらったり、ボランティアでお世話になったりすること以外で、感謝をすることはありますか。

5. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。
○支えてくれている人たちの気持ちに、あなたならどう応えますか。

- 【振り返り】の例
- ・見えていないけれどもお世話になっている人に対して、これからは感謝の気持ちをもてるようにしたい。
 - ・作ってくれている人に感謝して、文具を大切に使いしていきたい。
 - ・給食センターの人に感謝して、給食を残さず食べるようにしたい。
 - ・公園の掃除などのボランティア活動に参加してみたい。

終末

道徳的価値についての問題意識をもつために

- ・児童にとってより身近な感謝の言葉である「ありがとう」という言葉を取り上げることで、道徳的価値に根差した問題を自分事として捉えられるようにする。

教材の内容を理解するために

- ・基本発問を行いながら、祖母に対する「ぼく」の心の変容が分かるように板書をするすることで、教材の内容への理解を深められるようにする。

わかった

「やっとわかりかけてきた」

気付いた

生活が成り立っている

生きていられる生活ができる

もつと感謝
支えてくれる全ての
人々に感謝
色々な人のおかげで

揭示

「おかげさまで」

「イヤだ おおげさ」

揭示

わかっていない

〈板書例〉

道徳的価値の追求を行うために

- ・全体交流の場面では、教師がファシリテーター的な役割で児童の発言を引き出して整理し、更に出てきた考えに対する意見を求めることで、児童が多面的・多角的な意見を気付けるようにする。
- ・児童の本音を引き出す補助発問を行うことで、生活を支えてもらっていることへの感謝の気持ちをもつ理由について考えられるようにする。
- ・中心発問と補助発問で道徳的価値への理解を深めることで、自分が周囲の人々に支えられていることに気付き、考えられるようにする。
- ・展開の後半で感謝すべき対象を再び考えることで、感謝をする意味を改めて確認できるようにする。

指導例：主題名 感謝の心 内容項目 B-（8）感謝
 教材名 『おかげさまで』（日本文教出版）第6学年

ねらい：「ぼく」が気付いたことについて議論するとともに、祖母の態度・行動に触れることを通して、日々の生活が家族や多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする態度を養う。

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。**

○「ありがとう」という感謝の言葉は、なぜ言っているのでしょうか。

S：親切にしてもらったから。
 S：ボランティアでお世話になったから。
 T：感謝の言葉を言うのは、何かをしてくれたことに対してだけなのでしょうか。

【めあて】なぜ感謝をするのだろうか。
- 2 教科書の教材文の範読を聞く。**
- 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。**

○「ぼく」は、祖母が「おかげさまで」と言うことに対して、どう思っていましたか。

S：お世話になっているわけではないので、理解できない。
 ○その後、「ぼく」は祖母の気持ちが分からないままだったでしょうか。

S：だんだん分かってきた。

◎「ぼく」は、何に気付いたのでしょうか。

S：いろいろな人に支えられて生活できていることにおばあちゃんは感謝している。
 S：たくさんの人にお世話になっている。

・グループや全体で考えの交流を行い、考えが変容した時にはノートに青文字で記入する。〈グループでの交流〉

◇直接お世話になっていないことに対して、なぜ感謝をするのでしょうか。

S：支えてくれている人のおかげで、生活できている。
 S：見えない所で生活を支えてくれている人に対して、感謝しなければいけない。
- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。**

○親切にしてもらったり、ボランティアでお世話になったりすること以外で、感謝をすることはありますか。

S：友達でいてくれているから、学校で楽しく過ごせる。
 S：給食を作ってもらったり、運んでもらったりしているから、いつも食べられる。
 S：道を作ってくれている人がいるから、登校しやすい。
- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。**

○支えてくれている人たちの気持ちに、あなたならどう応えますか。

S：見えていないけれどもお世話になっている人に対して、これからは感謝の気持ちをもてるようにしたい。
 S：作ってくれている人に感謝して、文具を大切に使いしていきたい。
 S：給食センターの人に感謝して、給食を残さず食べるようにしたい。
 S：公園の掃除などのボランティア活動に参加してみたい。

感謝Ⅱ お礼
 何かをしてもらった

感謝Ⅱ 見えないことも
 支えてくれている



指導のポイント

【問題意識をもつ】

- ・身近な感謝の言葉である「ありがとう」という言葉を取り上げることで、本時の内容を自分事として捉えさせる。

【めあての設定】

- ・「直接的に何かをしてくれたことに対して感謝をする」という考えの児童にゆさぶりをかけ、本時の問題に対する意欲を高めさせる。

【中心発問について】

- ・グループでの交流では、自分の意見と似ているか似ていないかを考えながら話し合うよう伝え、多面的・多角的に意見を捉えさせる。
- ・全体の交流では、教師がファシリテーター的な役割で児童の発言を引き出して整理する。
- ・出てきた考えに対する意見を求めることで、児童が多面的・多角的な意見に気付けるようにする。

【補助発問について】

- ・児童の考えをゆさぶることで、間接的に支えてもらっている人などへの感謝の気持ちをもつ理由について考えられるようにする。
- さらに、自分が周囲の人々に支えられていることを気付かせる。

【振り返り】

- ・自分のできることを行おうという考えがもっている児童の考えを取り上げて、全体に共有させることで、支えている人の気持ちに応えようとする意欲を高め、授業を終えられるようにする。

道徳科学習指導案

令和元年6月 第6学年 指導者 金井 智之

1 主題名 感謝の心 内容項目B-(8)感謝

2 教材名 「おかげさまで」(出典:日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

「感謝」とは、人が自分のためにしてくれている事柄に気付き、そのことに対して、ありがたいと思う気持ちを向けることである。気持ちを向ける対象は人のみならず、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのものであり、さらにはそのような中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。そこで、温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、人々の善意に応じて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践しようとする態度を養いたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、親切にしてもらった人や、生活を支えてくれている家族などの人々に対して、素直に感謝の気持ちをもてる児童が多い。しかしながら、日々の生活を見えないところで支えている人々に対しては、感謝の気持ちをもつまでには至っていない。そこで、自分たちの日々の生活が多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気付かせ、自分も人々や公共のために役立とうとする態度を養いたい。

(3) 教材について

本教材は、祖母の「おかげさまで」という口癖に抵抗感を感じていた「ぼく」が、父親から祖母がその言葉を使うことの意味を知らされ、「おかげさまで」の意味を理解していくという話である。さらに、祖母の姿から感謝のお返しとして取った行動も表現されている。そのため、「ぼく」の心の動きに着目して祖母の態度や行動に触れさせることで、自分たちの生活が多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気付くことができ、自分も人々や公共のために役立とうとする態度を養うことができる教材である。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

・導入では、児童にとってより身近な感謝の言葉である「ありがとう」という言葉を取り上げることで、本時の内容を身近な話題(自分事)として捉えられるようにする。

○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

・教材の内容を確認する場面では、発問をしながら祖母の気持ちに気付いた「ぼく」の心の変容が分かるように板書で表す。そして、この板書を基に中心発問での「ぼく」の心情を整理できるようにする。
・全体交流の場面では、教師がファシリテーター的な役割で児童の発言を引き出して整理し、更に出てきた考えに対する意見を求めることで、児童が多面的・多角的な意見に気付けるようにする。
・展開の後半で感謝すべき対象を再び考えることで、感謝する意味を改めて確認できるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

・より道徳的価値の深まった友達の考えを聞くことで、自分を支えてくれている多くの人々の気持ちに込めようとする意欲を高め、温かな気持ちで授業を終えられるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

「ぼく」が気付いたことについて議論するとともに、祖母の態度・行動に触れることを通して、日々の生活が家族や多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする態度を養う。

(2) 準備

教師:場面絵、登場人物の絵、ワークシート

